平成30年度 第1回
紀の川市総合教育会議会議録（要旨）

- 1 開催日時 平成30年5月25日（金）午後2時55分～
- 2 会場 紀の川市役所 4階 402中会議室
- 3 出席者 中村慎司・貴志康弘・森岡一郎・中西啓子・長谷弘司
- 4 欠席者 西平哲也
- 5 出席職員 市長公室長 西川直宏・企画部長 今城崇光・総務部長 金岡哲弘・教育部長 山野浩伸・教育審議監 上野大雄・教育監 妻鹿慎郎・次長兼教育総務課長 谷口永司・教育総務課専門監 藤井丈士・生涯学習課長 上中和利・生涯スポーツ課長 松井孝作・生涯スポーツ課班長 堀口泰弘・主任指導主事 石丸岳志・教育総務課班長 長田和美・教育総務課副主任 神田友紀
- 6 傍聴者 なし
- 7 協議事項 (1) 紀の川市教育大綱（案）について
- 8 議事の要旨
 - 開会
 - 市長あいさつ
 - 協議事項

(1) 紀の川市教育大綱（案）について

教育総務課長

【資料に基づき事務局から第2次紀の川市教育大綱（案）について説明】

教育部長

ただ今、説明のありました「第2次紀の川市教育大綱（案）」6ページまでの部分について、委員の皆様から何かご意見がありましたら、お願いします。

委員

市の長計「人が行き交い 自然の恵みあふれる 住みよいまち」の実現に向けての教育大綱の基本理念が、「生涯共育 子供も大人も元気に育ち学び続ける」とあります。

このテーマについては、前回の大綱は「紀産紀育」でしたが、紀の川市は全国に先駆けての生涯学習推進のまちでもあり、前回のテーマをステップとして更なる前進へのテーマではないかと思えます。

また教育委員会の設置目標として、「みんな元気に育ち 学び続けるまちづくり」とあります。

今回のこの大綱につきましては、賛同させていただき、これからの紀の川市の教育推進に微力ながら、がんばりたい。そう決意した次第です。以上です。

委員

生涯共育は共育コミュニティ等、地域共育コミュニティ・コミュニティスクールなど市民が一体となって教育を進めていく。そういう観点から、この教育大綱の基本構想が制定される案ですが、大変共感いたします。よって賛同いたします。

教育部長

今、共感、賛同という声が出ているのですが、どうですか。

教育長

生涯共育ということで話をさせていただいていますが、学校教育においても子供たちが楽しく学校生活を送り、そして学ぶということが基本になってきます。

学校を出てからも、社会人になっても学び続けられる子供たちにしていきたいと考えています。そういったことから、特に学校教育においては子供たちが学ぶことが好きになれるような授業改善をしていきたいと考えています。

教育部長

教育長からまとめの意見をいただいたのですが、今、説明のあった6ページまでの部分について承認ということよろしいですか。

委員全員

はい。

教育部長

6ページまでの大綱（案）については承認とさせていただきます。それでは続きまして、第2次紀の川市教育大綱（案）の7ページからの基本施策の具体的な取組について説明をお願いします。

教育総務課長

それでは、大綱（案）の7ページをご覧ください。

7ページから13ページにかけて、先ほど説明させていただきました基本施策ごとに実現のための取組方針、取組事業につきまして、詳細に掲載していますので、ご覧おきいただきたいと思います。

教育部長

基本施策の具体的な取組についての説明ですが、委員の皆さんからご意見がありましたら、お願いします。

委員

資料の9ページ「子供の力を伸ばす教育」の豊かな学力の向上について、まずは学校司書の件ですが、皆さんの要望で平成29年度に2名の学校司書を設置していただき、各学校とも急速に読書教育、図書教育が充実してまいりました。

特に本を読む生徒が増えてきましたし、増えるだけでなく、司書さんからのアドバイスを受けて平素の授業にも、「この単元に、この本を使うといい。」というようなアドバイスをいただき、多くの本の利活用ができるようになり、授業がより充実してきたと聞いています。

もうひとつは、2月の総合教育会議にも提案させていただいた英語教育の件です。本年度、早速、指導主事に英語堪能な先生を配置していただきました。少し不安であった小学校での英語教育の推進に、核として大きな力になってくれると確信しています。

市長にはどこよりも早く、先駆けて取り組んでいただき、本当にありがとうございます。

さらにもうひとつ、大綱に関連する内容ということで、学校教育指針について手元に案がありますが、これは毎年、更新しているそうです。昨年度の学校教育のテーマが「一校、一推進」とあり、このビジョンに基づいて、各学校、一年間取り組んでくれました。

その中でいつも、教育長はじめ、教育部の皆さんが、あいさつや、話し合いや指導助言の中で、「チーム紀の川市、チーム〇〇小学校、チーム〇〇中学校」を提唱していただき、現場の先生を激励する中で、各学校が一生懸命、一枚岩となって意欲的に取り組んでくれる姿に感銘を受けました。

今年のテーマは「つなぐ」で、各学校のビジョンが全部「つなぐ」となっています。

地域の応援隊であるコミュニティスクールの取組や推進、学校、家庭、地域が一体となって地域の方々とともに知恵を出し合い、創意工夫して取り組んでくれることを大いに期待していますし、精一杯応援していきたいと思っています。

委員

基本施策の最後の7項目目に「目標実現のための取り組み」がございます。

<生涯を通じたスポーツ活動の推進>

○児童・生徒や青少年のスポーツ活動を支援し、ジュニアスポーツの競技力の向上を図ります。

ということで、私は少年スポーツの充実が大事だと考えています。全国的にも少子化で、紀の川市も例外なく児童生徒数が減少している中、中学校のクラブ活動を減らしていく、人数が少なくなってきたのでクラブ活動も減らしていかなければチームが成立しないという話を伺ったことがあります。

運動部に関して言いますと、中学校体育連盟では複数の学校が1つのクラブを作って中体連の大会に参加する、出場するといった取組もなされていると聞いています。

また、指導者についても外部指導者を導入して教職員の負担を軽減するといった話も聞いています。

今後、中学校も小学校も児童生徒数が減少して、子供たちのニーズにあったクラブ活動をさせてあげるためにどのような取組を進めていったらいいのか考えているところです。何か良い案があれば、具体的に進めていければと考えていますが、外部指導

者や複数の学校が1つのクラブを運営しているような事例はありますか。

教育長

昨年は、野球とソフトボールで合同チームが1つずつあったと思います。

県の中体連も2チームまでの合同チームについては参加可能ということですが、3チームの合同チームについては認められていないという状況です。

今、少子化で子供たちが少なくなり、学級数が少なくなると教師の数も減ってきます。そうになると、どうしても学校としてはクラブ数を減らしていかなければ全体の運営ができないという状況になりますので、大変厳しい状況です。

特に大きな学校でも、野球部については今年も入部はなかったと聞いていますので、大変厳しい状況です。

市長

それは、指導者の問題か、生徒が勉強しないといけないからクラブに入らないのか、原因は。大きな学校で、野球部を作れないのは考えられない。

教育長

少年野球の大会に参加して見せていただいたのですが、貴志川地区では2つの小学校が合同チームで1つのチームになっています。

他の小学校でも、今年は6年生が何人かいて1チームでありましたが、やはり少なくなっています。

他の少年野球のチームはもっと大変な状況で、今年は大会に参加できていないチームもあるようです。

また、粉河地区では4つの小学校のチームを2つのチームにしなければならないという案も出ていて、指導者の方が色々と研究しているところです。以上です。

教育部長

中学校のクラブ活動の関係でご意見があったのですが、よろしいですか。

委員

教育大綱の基本構想の基本理念に「生涯共育」生涯ともに学ぶということで、大人も子供もというくだりがあります。

地域の人と子供たち、学校と地域の人たちがともに力を合わせて学んでいく。学びというのは単に学力だけではなくて地域の歴史や文化、そしてスポーツといったことも入ってくると思いますので、教育大綱に沿って地域の方々とともにスポーツ活動ができればうれしいという思いです。

教育長

外部指導者の件について、国から教員の働き方改革に向けて先生方の負担をできるだけ少なくする、特に中学校では、部活動において先生方の時間が取られるため、ということで、国3分の1、県3分の1、市町村3分の1の負担で外部指導者を導入できることが今年の2月ぐらいに決まりました。本市においても6月議会で外部指導者を導入していただけるよう、手続きを踏んでいるところです。

教育審議監

外部指導者について、この4月に運動活動の活動指針の概要版が和歌山県から出されました。国の流れを受け、活発にしていかなければならないということと、中学校教員の負担が大きい（クラブ活動、チームの指導）ため働き方改革の見直しのひとつとして、外部の者の指導を入れていくという提示がありました。紀の川市では、昨年度から本年度に向けて予算を計上し、6月議会で議案を通すところです。

今、3つの学校から計6チームの申請があり、獲得した予算を上手く運営していこうと考えています。

委員

これから子供たちが充実した学校生活、クラブ活動ができるように皆で知恵を出し合い、そのような制度を取り入れていただければ大変ありがたいです。

教育部長

他に何か、ご意見等はありませんか。

教育部長

特にないようですので、本日の議題の「第2次紀の川市教育大綱（案）」については承認ということでよろしいですか。

委員

結構です。

教育部長

それでは、承認とさせていただきます。

市長

大綱に、学校施設の中で老朽化したり、耐震補強しないといけないと書いてあるのは、まだ紀の川市に何箇所かそういうところはあるのか。

教育総務課専門監

耐震補強等については構造部分については100%完了しています。ただ、建物内の設備や外壁などは、建て替えていない学校については大規模改修、長寿命化等の施策が必要になってきますので、来年度以降にしないといけないところはあります。

市長

文化財の継承や活用と書いているが、これらは青洲の里へ華岡青洲を学ぶということで、遠足などで紀の川市の生徒を行かせているのか。

教育総務課長

毎年、紀の川市内のほとんどすべての学校において、小学校3、4年生の活動として、市のバスを利用して青洲の里を訪れています。

市長

それから、市として引き続き校舎等の補強建て替え等について考えていかなければならない。

安全・安心のために通学路の指定なり、安全対策をもっと積極的にしないとイケな

い。紀の川市は朝の集団登校時に、皆さん方が見守りや指導をしてくれているが、もう少し対応の受け皿（道路）を充実していくことが大切だと思う。

また、今はほとんどの中学生がヘルメットをかぶっているが、かぶっていない者には絶対に自転車には乗らせないというくらいの厳しい体制でいかなければならないと思う。それだけ厳しく言うからには、市の行政としても交通・道路の体制をより安全な通学路、歩道にするということで応えていかないといけない。

教育部長

他に何かありませんか。

なければ、これで第1回紀の川市総合教育会議を閉じたいと思います。本日はどうもご苦勞様でした。

全員

ありがとうございました。

○閉会